
漆黒の狂戦士と殷の紂王

流狼人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漆黒の狂戦士と殷の紂王

【Nコード】

N1692Q

【作者名】

流狼人

【あらすじ】

流狼人誕生日コラボ。 <漆黒の狂戦士と薄幸の魔王> <反北郷戦記>のクロス・場所はシスイ関です。

(前書き)

誕生日きたー！。そして免許更新するぜ！！両作品の応援よろしくです

「理由——主を悲しめた——こと……何より——武士と
——して——彼らを——出迎える……唯——それだけ
——だ」

「——我が身——狂戦士……主の敵を——薙ぎ払う
もの——いくぞ……我を——倒して——見せる……！」

「——その程度か……また——相手してくれる——」

狂戦士のサーヴァント・バーサーカーこと馬嵯禍は、主董卓の為・
仲間である華雄を馬鹿にした連合に恐怖を与え、関に戻ろうとして
いた、が。

「またれよ……戦士よ。」と声が聞こえたため振り返ると

ザン！

首を半ば斬られた事が分かった。

Side 帝辛

つく、この我が恐れただと？

否だ！

それを肯定するために、目の前の巨兵を切り捨てた。

「ふゝ・・・唯でさえ北郷を殺さんと拳兵したのに、こんな所で予定を狂わせたくはないので斬らせて貰った」

「――！！・・・ぞ？」

ば、馬鹿な。奴は不死身か?!?

この剣はあの女狐を一太刀で切り捨てたほどの妖刀だぞ?!?!

何故貴様はそれで蘇るの「――考え事は――済んだか――」<
ダン!!>だ!!?<

と・・・気が付くと・・・我は空を飛んでいた・・・

Side Out

黄飛虎は、いや殷軍の将兵は目を疑った。

巨人が蘇り、殿下を吹き飛ばしたのだ・・・裏拳で。

殿下は二三転して漸く止まった。そして、時は動いた。

「殿下・・・でんかでんかでんかでんかでんか――あ、ア嗚呼ア

アアアアアアあ嗚呼アア！！！貴様！！！！」

最初に動いたのは太師・聞仲。

しなる双鞭で巨兵の首を絡め取り跳躍、双鞭の引き戻る力を利用して巨兵の鼻に膝蹴りで穿ったのだ。

「……………」

「痛いかきついかわしいか悔しいか……殿下を傷つけた罪は貴様の死を持って償え！！」と、倒れた巨兵の首を更にキック締め、更に喉仏を蹴り続けた。

その顔は……修羅其の物。ただ、涙を流し続けて。

だが、それも終わる。

巨兵は拳を強く握り、聞仲を殴り飛ばした。

正確には……

「か……あが……」

「ぐふ……り、柳流！しっかりしろ！！」

聞仲の危機を悟り、身を持って間に入った悪来と共に殴り飛ばしたのだ。

首の拘束が解け、なんとか立ち上がった馬嵯禍に待っていたのは・
・鉄の棒であった。

「我が名は黄飛虎。武成王黄飛虎なり！！巨兵よ、我が主君と友を穿った代償。其の命で払って貰おう。無論、利子は100倍でだ！
！」

と、黄飛子は突貫して行った。

馬嵯禍もそれに応じ大剣を持って払った。

時は、経ち。

「——まだ、やるか——」

「……む、無論……だ——つく！」

馬嵯禍有利に進んだ。

黄飛虎の体は傷だらけであり、鉄の棒も半ばから折れかかっていた。
連合も流石に畏怖を覚えた。

かの武成王が手も足も出ない。

まさに、恐怖は伝染し士気はガタ落ちであった。それでも・・・

「我が立つ限り・・・殷の武は不滅・不倒なり。我は武の象徴にして武の王なり。・・・いざ——参る！！」

その気高さ。

狂戦士の身に成り勇猛の心が失っていた。だが、今その心が震えている気がした。聖杯戦争でも高ぶらなかつた心が動いている気がしたのだ。

「——我——バーサーカー——真名——ヘラクレス——往くぞ武成王よ・・・我が力で逃げ！——！！！！！」

「ふ。我が真名は命！！いざ逝かん、修羅の武道！ガアアアアアアアアア！！！！！」

へ、ヘラクレスって、ギリシャ神話の大英雄！な、なんでこんな所に！！と連合の方で聞こえたのは気にしない。

黄飛虎はこの勝負に賭けた。それこそ、武成王の誇りすらも賭けの対象にした。

ほどの戦士だ。このような小汚い所で勝負するなど以ての外だ！」

「は、はい。殿下、申し訳ございません。」

「うむ。と、言うわけだ。戦士馬嵯禍よ。貴公と、飛虎の勝負は然るべき所で行うが故、ここは撤退させてもらってもかまわんか？」
と、帝辛は馬嵯禍に提案をした。

馬嵯禍は途中で戦いを終わらせられて不機嫌だったが、帝辛の言う事も分かる。帝辛の足が震えているのも分かった。其の震えは怯えではなく、自分の体力が未だ回復していない事。なによりこの勝負を本気で見たいと感じていることがひしひしと伝わってきた。

「――いずれ」

と言い残し、泗水関に戻っていったのだった。

「つく。」と、呻き声と共に帝辛は倒れ、黄飛虎に支えてもらう形に成った。

「で、殿下。大丈夫で？」

「なわけ無かるう。戻るぞ、飛虎。お前も治療してもらえよ。」

「はは！―！」

巨兵馬嵯禍の影響で連合の敗北で終えたのだった。

しかし、漆黒の狂戦士を率いる董卓軍と殷の紂王の軍は益州・涼州の州界で戦い続けたのだった。

(後書き)

・・・少し不良かな？感想よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1692q/>

漆黒の狂戦士と殷の紂王

2011年1月19日03時44分発行